

ゆうあい

あなたがいて、わたし、がある。

DECEMBER 2024

12

vol.576

特集

CROSSTALK 座談会
ゆうあいの理念に込められた思い



法人理念検討チーム

写真後列上から サポートすばる 林所長、ゆうあい幼稚園 堀園長、法人本部 林原事務次長
前列上から WSはこだて 原田課長、ばすてる 小谷所長、ねお・はろう 上川園長



社会福祉法人佞愛会

12月号 令和6年12月1日発行

発行日:偶数月1日 / 発行者:大場公孝 / 発行所:社会福祉法人佞愛会(北海道北斗市通分7丁目8番9号)

<https://www.yuai.jp/>



社会福祉法人佞愛会
学校法人ゆうあい学園

www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

ワークショップまるやま荘の報道と今後について

11月22日につづき、12月8日にも侑愛会と侑愛会が運営する事業所に関する報道がNHKニュースで放映されました。その後、テレビや新聞などでも同様の報道が続きました。また、それに対する法人の対応についても、多くのご批判、ご意見を各方面からいただいております。

NHK報道では、時間外勤務手当未支給と管理職のハラスメントが取り上げられておりました。当該事業所の職員からハラスメントの訴えを受け取った法人の対応が不十分であったこと、事業所への介入が後手に回ったことが事態をここまで深刻化させたことを、深く反省しております。職員の皆さん、ご利用者のご家族、その他多くの関係する方々に多大なご心配をお掛けしていることに対してお詫びを申し上げます。

現在、当該事業所の管理職体制を変更して職場環境の回復を図るとともに、職員配置の補強により職員不足を解消できるよう法人内の調整を進めております。また、現場職員のリーダーの導入が必要であり、速やかに配置できるよう努力しているところです。職員からのハラスメントの訴えについては、法律家を含む第三者による事実確認を実施することとしております。

労務管理の徹底がなされていなかったことや職員からのハラスメントの訴えは、法人運営の根幹に関わる問題を反映していることを認識し、危機意識を持たなければならないと考えております。法人および各事業所の管理職のマネジメント力、危機管理能力を強化する方策を模索して参ります。労働法令を遵守する運営にとどまらず、仕事を通して人としての成長を実感できるような労働環境、福祉を志す人たちに選んでもらえる職場づくりを、職員をはじめ多くの方々の知恵、意見に耳を傾けながら、進めていかなければ、と考えております。

社会福祉をめぐる深刻な課題となっている人材確保難が続いています。今後も見通しは厳しいものがありますが、事業の再編、整理、業務の効率化などを視野に入れて、法人事業の継続を目指して参ります。

私たち侑愛会は試練の時期に直面しています。解決していかなければならない課題はたくさんあります。侑愛会への信頼を回復できるよう一步一步、努力を重ねていきたいと考えておりますので、これからどうぞ皆さまのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
理事長 大場 公孝

念を、と考えているようなところもありました。しかし、こうした作業によって新しい理念もこれまでの延長線上にあるべきものと認識するようになった気がします。今までの理念も、諸先輩の方々が実践を繰り返して積み重ねてきたものであることも分かりました。

理念をどうやっていくべきか

林 前半のふり返り作業では、「あなた」「わたし」「ともに」「人ひと」「想う」ということがよく出てきました。また侑愛会の「情」という字。新しいことばを考えるのではなく、共通するキーワードを探していく作業となりました。

上川 理念は、表現できるかどうか別にして、目指すべき理想のようなものです。大きな表現が、理念にふさわしいのではとなりました。そこで、今までの理念が昇華された「あなたが安心して暮らせる社会を創る」ということばに繋がっていきます。

林 インクルーシブということばについて、「今さら入れるべきなのか？」という声もありました。何故なら、ゆうあいは、元々のなり立ちからインクルーシブな状態を標榜してきた法人だったからです。しかし、ゆうあいの歴史を知らない若い世代の職員も多くなりました。あえて入れることで、ことばの意味を考えることにつながるかもしれないと考えました。多様性(ダイバーシティ)だけでは足りない。違いを認識して認め合い、そのまま生かし合っていくことでインクルーシブな状態になるということ。

堀 「口ナ禍で社会が一変、多様な価値観が尊重される時代となりました。インクルーシブやLGBTQなどの文盲が、理念を構成するキーワードの一つになるとは今まで考えもしなかったことです。こうした時代だからこそ、新しい理念が必要となると信じています。

新しい理念の浸透について

小谷 ぱすてるでは、日常業務に忙殺されて新しい理念について語り合う、深めるという時間をなかなか作れていません。石川地区全体では、島信(朗氏)インクルーシブ未来推進機構代表をお招きして本音で自らの体験を語り合うような取り組みを始めています。

原田 互いに連携し合う関係性をどのように作っていくのか。理念を意識して、自分の事業所だけでなく、さまざまな人や団体と一緒に何かに取り組むことを通じて根付かせていく方法を考えていきたいです。

林原 会計の仕事がメインの法人本部でも、新聞などでインクルーシブということばを見つけて理念を考える機会になったという話を耳にすることもあります。理念を知ることする人が確実に増えてきていることを実感しています。

林 理念は上から与えられるものではなく、決して無く、自分たちで作っていくものなんだ！と一人ひとりが思ってくれるようになったら嬉しいですね。

理念の実現に近づいていくために

上川 理念は、明日明後日で実現できるようなものではない。一歩ずつ、地道に積み重ねていくことが大切だと思います。指針や小冊子のイラストなんかも分かりやすくて良いですね。イメージしやすいです。

林 この春、サポートするの人材育成面接で、職員が記入した目標について、4つの姿勢(2024・4月号特集参照)のどれに当てはまるものかな、などととやうり取りすることがありました。

堀 自分たちが取り組んでいることが、そのまま理念の実現に繋がっている。職員の人た

CROSS TALK 座談会

「ゆうあいの理念に込められた思い」

今年の4月、ゆうあいに新しい「理念」が誕生しました。理念を実現していくために求められる「使命」も明らかにし、その使命を果たすための「姿勢」も示すことができました。

今回の特集では、約2年もの歳月を費やして理念を新しくするプロジェクトに関わった委員の方々に集まってもらいました。理念に込められた想いを語ってもらいます。

リーダー
サポートする
所長
林 経夫

ねおはろう
園長
上川 孝一

ぱすてる
所長
小谷 素美子

法人本部
事務次長
林原 英二

ワークショップはこだて
課長
原田 智子

ゆうあい幼稚園
園長
堀 浩介

私たちの理念 PHILOSOPHY

あなたが安心して豊かに暮らせる社会を創る

インクルーシブなわたしたちの街を実現する

新しい理念を検討するプロジェクトに携わることになった

林 今までの理念が変わるかもしれないとは思っていませんでした。しかも、それを検討するチームの一人に選ばれたことに戸惑いました。皆さんはいかがでしたか？

上川 「えっ、理念で変わっていくの？」とも思いました。理念は理事長から示されるものと思っていたので、皆で考えるとは驚きました。

小谷 私はプロジェクトチームという名前の響きにカッコ良さを感じました(笑)。関わることで貴重な経験ができるかもしれないと思ったことを憶えています。

林原 選ばれた以上は自分なりに頑張ろうと思いましたが、どこまで役に立てるか不安もありました。

原田 これまでの理念「利用する方々から学び、一人一人が必要としているサポートを考え、実行する」。利用する方々から学ぶという姿勢が、私にはとてもしつくり来ていました。

堀 私こそです。理念に込められた、昔から変わらない利用者ファーストの精神。これをどう変えるのだろうか…と、最初は見当が付きませんでした。

林 今までの理念は、ある意味で法人らしさそのものであった気がしています。愚直というか、良い意味で普通の言葉の連続で飾り気はありません。とても素敵で率直なことばと今でも思っています。

理念って何だったから始まった

上川 最初に集まったとき、このプロジェクトの趣旨が確認されました。理念とは、法人のあるべき姿を示す、もっとも大切なもの。今までの理念や使命を継承しつつも、一方では目まぐるしく変わる社会情勢や福祉二



ちと一緒に考えることは大切です。ね。理念を身近なものにすること。それ、良いアイデアなのだと思います(笑)。

林 身近にしたいですね。事業所目標なども、この姿勢のどれに当てはまるのか自覚的に作るなど。理念の浸透について、まだ事業所ごとに意識の温度差もあると思います。どのように全体を巻き込んでいけるかが今後の課題の一つと感じます。

上川 自事業所内の責任者による説明だけでなく、このプロジェクトチームの人間が出向いてコミュニケーションすることも一つのアイデアとして有りかもしれません。

林 あと、実践発表の機会をもっと作る必要があると感じています。失敗談もふくめて、私たちが頑張っているけど、あそこも頑張っているな。一緒に、とか。この仕事の価値ややりがいを共有できる機会を増やしたい。

堀 少し緩い感じで色々な人と交流する、話をする機会も増えたら良いなと思います。そうしたなかで、自分が行っている仕事の再確認、勉強への意欲に繋がるのでは。もっと色々なことを気軽に話せるような場があれば良いのだけど、みな忙しそうなんですものね。

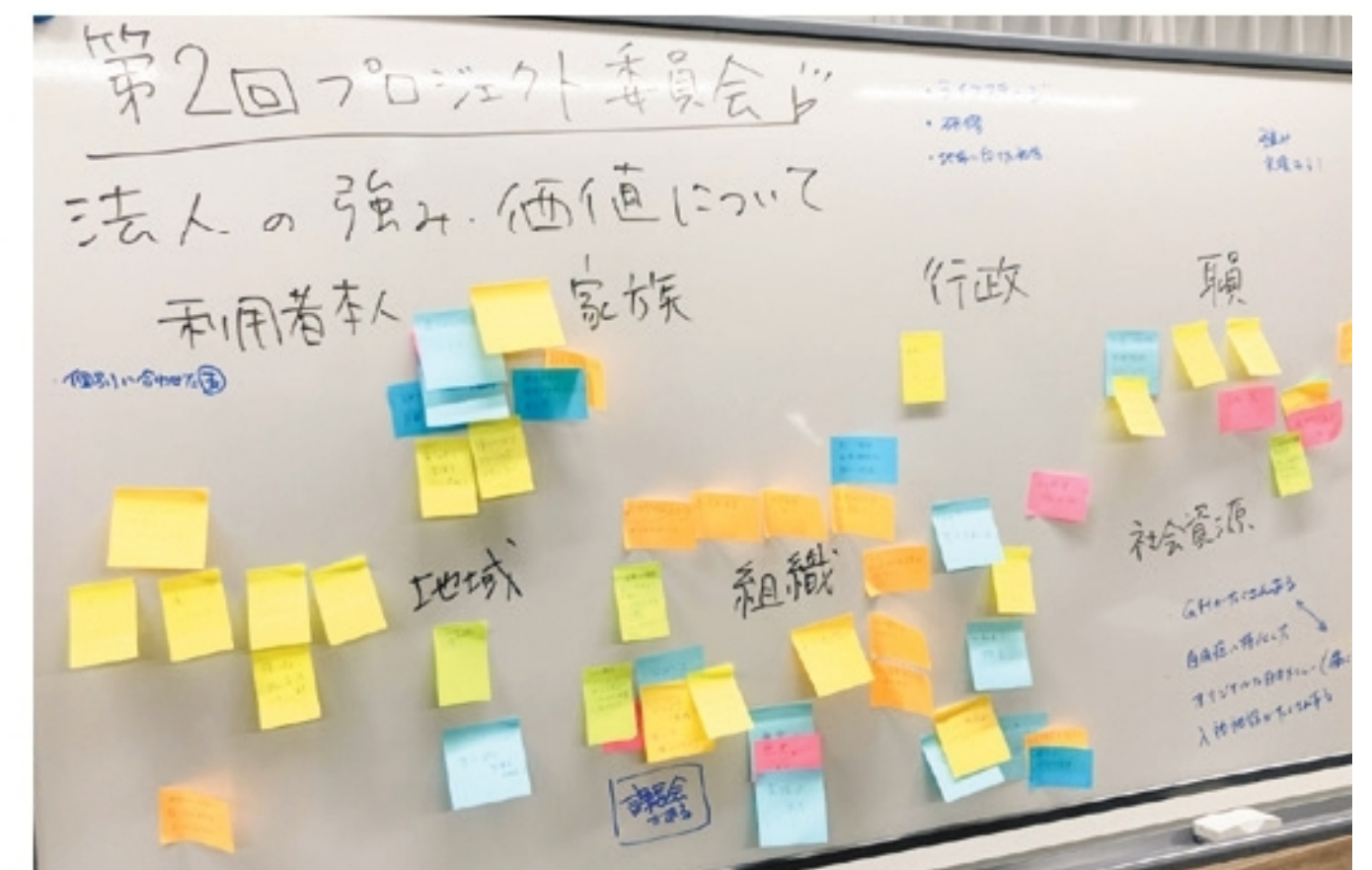
小谷 最近、多目的な用途でたくさんの方が使用する施設に関する相談を受けることがありました。たくさんの方が利用するためには発生する諸問題について、どうやって解決の糸口を探れるのだろうか。色々な人にと

て優しい施設？それとも、インクルーシブな街をつくる、ということについて、その相談から一つのお題を出されているような気がしています。

上川 新しい理念は「あなたが」「わたし」に変わることもあるし、「わたし」が「あなた」に変わることもあります。ここが良いところの一つと感じています。法人にいる私たちだけではなく、地域の人たちに置き換えることができます。先日、当事者団体の研修に行くことがあったのですが、一方で入所施設の専門性やセーフティネットとしての役割への期待も感じました。しかし、時代の価値観に合わせて変わっていくべきところも多くあります。このままで良いわけでは決まっています。利用者の方々が、ありのままでも暮らすことができる場所になるために、どのような変容が必要なのか、その答えは、地域にあると感じます。地域の繋がりが希薄化するなか、法人や入所施設はどのような役割を果たしていくことができるのか。地域とどのように関わっていくのか、ますます問われていくような気がしています。

林 理念についてももちろん、ゆうあいの職員にも一緒に考えて欲しいのですが、地域の人たちにも発信して知ってもらうことも大切ですね。最近、地元の良い人と話すことがありますが、ゆうあいのことについて殆ど何も知っていませんでした。理念についても、私たちのことに対するのではなく、私たちのことをもっと地域の方々に知ってもらうために発信をしていく努力も必要に感じています。皆さん、今日はありがとうございました。

日付: 令和6年11月5日
場所: ぱすてる
文責: 小谷 高太郎





社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp